

在宅医療地域ケア会議通信

在宅医療と介護の今

「顔が見える関係」で、安心の地域ネットワークを

■ 第1回地域ケア会議、7地域で相次いで開催—参加者は直接会話を歓迎

6、7の両月、7つの地域の第1回在宅医療地域ケア会議が地域区民センターや医師会館、区役所などで相次いで開かれました。各地域とも医師、歯科医師、薬剤師、ケアマネジャー、ケア24職員ら平均で約45人が出席し、熱心な意見交換を行いました。こうした形で医療と介護の関係者が顔を合わせるのは初めてのことです。会議では企画運営メンバーが用意したテーマや事例に沿って、本音を含めて突っ込んだ議論が展開されました。高齢者の在宅療養を支える関係者が地域でネットワークを築いていくための「顔が見える関係」づくりへ向けた第一歩です。それぞれ1時間半程度の会議でしたが、あっという間に時間が過ぎ、どの地域でも参加者から「時間が足りない」という声が出るほど。

出席者の間では「予想以上に多くの関係者が集まり、



阿佐谷地域 加藤医師



有意義な話し合いができた」というのが一致した感想でした。ケアマネジャー側は医師側との連絡・連携の難しさを感じている人が少なくありませんでしたが、直接医師と話す機会ができたことを歓迎しています。「これから在宅での看取りも多くなると思うので、主治医との連携が適切に取れるようにしていく必要があります。ケアマネジャーとしての役割をしっかりと勉強していきたい」と語る人もいました。

一方、医師側も多くが「医師として（介護現場について）知らないことがあった。ケアマネジャーの本音を聞いてよかった」などと評価しています。また、「歯科医師会も積極的に様々な形で協力したい」「薬剤師が医師とケアマネジャーの仲立ちができる可能性を感じてもらえた」などという意見も出され、歯科医師や薬剤師も積極的に関わっていく意向が示されました。

杉並区在宅
医療相談
調整窓口

高齢者等の在宅医療をサポートするため、相談員が区民の皆様や医療・介護・福祉の関係者の皆様からの在宅医療に関する様々な相談に応じます。

- 担当部署名：杉並区保健福祉部高齢者在宅支援課
- 電話連絡先：03-5307-0782（直通）
- 受付日時：月～金曜日（祝日・年末年始を除く）
午前8時30分～午後5時

■「向こう三軒両隣」の地域つきあいを一対応が困難な事例で意見交換



各地域の第1回ケア会議の特徴は、医療、介護とも対応が難しいケースなど具体的な事例を取り上げて、多職種で話し合ったことです。「普段は連携の機会が持ちにくい各職種が、事例検討を通してお互いの専門性について

理解し、様々な角度からの意見を聞き合う」（荻窪地域の企画運営メンバー）ことに狙いがありました。

下の表にあるように、例えば阿佐谷地域では「認知症高齢者への介入と地域の支援ネットワーク」、高円寺地域は「支援が必要だが介護サービスにつながらないケース」というテーマに沿った事例を取り上げ、その事例について医師、歯科医師、薬剤師、ケアマネージャー、民生委員らがそれぞれの立場から意見を述べ合いました。ここでは高円寺地域での様子を紹介합니다。

取り上げられた事例は、一軒家に独りで住んでいる80代の女性。慢性疾患があり、歩行が不安定でデイサービスの入浴などは介助が必要。家はゴミ屋敷状態で近所迷惑となっている。汚れや体臭が強く、コミュニケーションに問題があり、高齢者のサロンでは敬遠されている。認知症や精神疾患の有無は不明で、医療や介護保険サービスは受けていない…という内容でした。

さまざまな意見が出されましたが、共通していたのは関与す

る人とご本人との信頼関係づくりが大事であるということでした。医療・介護サービスにつなげるためにも、ご本人との意思疎通と情報把握が欠かせませんが、その第一歩が人間関係づくりという認識です。

高円寺地域リーダーの窪田茂比古医師は「杉並では独居高齢者の家がゴミ屋敷化し、そこに住む高齢者が地域で孤立化しているケースが増えています」と懸念を表明します。そのうえで「ケア24などからの相談で医療・介護関係者が対応するのは当然ですが、もっと前の段階でシグナルに気付く必要があります。昔は地域に「向こう三軒両隣」の付き合いがあり、地域で支え合っていました。そうした地域の人間関係をもう一度回復させていくことが課題ですね」と語っています。



高円寺地域 窪田医師

■ 第1回在宅医療地域ケア会議の開催状況（開催順）

地域名	開催日	テーマ
井草	6/15	高齢者の入院における医療・介護の役割
西荻	6/22	医師と介護職の連絡方法
方南・和泉	6/25	看取りについて
高円寺	6/30	支援が必要だが介護サービスにつながらないケース
荻窪	7/2	患者本人及び家族の心のケア
高井戸	7/16	医師と介護職の相互理解へ向けて
阿佐谷	7/22	認知症高齢者への介入と地域の支援ネットワーク

医療と介護の「連携」から「連動」へ

—杉並区居宅介護支援事業者協議会の酒井英之副会長に聞く

在宅医療においては、ひとりの利用者に対して、医師、看護師、ヘルパー、そしてケアマネジャー（以下ケアマネ）らがひとつのチームとなってケアを行います。現場での課題や連携の状況について、杉並区居宅介護支援事業者（ケアマネ）協議会副会長の酒井英之さんに聞きました。

●チームみんなが同じ目標に向かう

— 医療と介護の関係者がひとつのチームとなって行う在宅医療において、ケアマネが果たす重要な役割はなんでしょうか。酒井さん：ケアマネの業務には、介護をコーディネートするような側面があります。なかでも「サービス担当者会議」で医師、看護師、ヘルパーなどが集まって利用者とともにケアプランを確定させますが、この会議が重要です。ここで関係者が顔を合わせ、専門家としての意見やサービス情報などを提供し、「まだこんなことができるんだ」と利用者に気づいてもらいます。そして、利用者の望む目標を明確にし、チーム全員で共有するところが、ケアマネとしての腕の見せ所です。利用者の可能性を引き出し、各専門家がより効果的に業務に当たれるように役割分担をするところに、ケアマネとしての専門性があると思います。

●関係者を知る、地域を知る

— まさに関係者の連携が不可欠ですが、実際の業務の中では難しさを感じることもあるのではないのでしょうか。酒井さん：ケアマネから担当医への連絡ひとつをとっても、お互いの役割やタイミングを分かっていないとうまくいきません。医療側も介護側も、同じ業界にいながら意外とお互いのことを分かっていません。どういう使命を持ち、どういうことを考えて働いているのかということを知れば、解決できる問題も少なくないと思います。全体として連携の意識が高まってきたこのタイミングに、このケア会議で具体的な成果を出し、うまく現場で連動させるところまで持っていきたいですね。

地域との連携についても、地域にある社会資源を活かしきれていないのが課題です。医療関係者だけでなく、町会や民生委員らとともに集まる機会をつくるなど、各地域で取り組みは進んできています。ただ、組織の数が増えるばかりで、なかなか成果につながっていないところもあります。地域にどんな社会資源があるかを集約し、場合によっては組織を統合することも必要なのではないでしょうか。

●いまこそ具体的な成果を

— 医療と介護、そして地域の連携を実現していくために、行政側に求めることがあればお聞かせください。

酒井さん：行政側には、もう一步踏み込んだリーダーシップをお願いしたいと思います。現場のことを尊重してもらっていることは分かるのですが、「地域包括ケアシステム」という壮大なテーマではなかなか現場の足並みはそろいません。もう一段下がった小さなメッセージを示してもらえれば、それに向かって動きやすくなります。



酒井さん（高井戸地域）はケアマネ歴10年。病院のケアワーカーを経てケアマネになりました。「病院や施設の介護は其中で完結していることが多いですが、利用者一人ひとりの尊厳、個別性、自立といった部分はどうか」と課題を指摘します。「ご家族とのやり取りやいろいろな職種、機関と連携しながらの仕事にやりがいを感じます。やればやるほど『在宅』は奥が深いです」。話す言葉に実感がこもりました。



■「主人公は利用者ご本人」—在宅介護のコーディネートにやりがい

公式名称は「介護支援専門員」。そう、ケアマネジャー（以後ケアマネ）のことです。言うまでもなく介護保険制度に不可欠な専門職で、介護が必要な人のためにヘルパー、デイサービス、訪問看護などのサービスを組み合わせたケアプランを立てる介護コーディネーターです。今回は地域ケア会議の企画運営メンバーでもある2名のケアマネの方に登場していただき、その仕事と仕事への思いを紹介します。

●「在宅生活」のケアプランにハマる

本郷公子さん（阿佐谷地域）は介護保険制度のスタート（2000年4月）と同時にケアマネの仕事始めたベテラン。現在は民間事業所の管理者として活躍しています。それまで看護師をしていた本郷さん、「ケアマネになって患者さんの退院後の在宅生活を知り、ご本人やご家族と話を



をしてケアプランを立てることに喜びを感じ、ハマりました」と明かします。利用者本人や家族の意向に沿って医療・介護サービスを組み合わせるのはもちろん、「どうい生活をしたいか。例えば『旅行

をしたい』というご本人の希望があるならば、それへ向けて歩けるようにする。自分で着替えができるようにする。そんなモチベーションを持ってもらうことも必要ですね」と語ります。

●支えていく気持ちに隔たりはない

江前直子さん（荻窪地域）もベテランのケアマネ。ケアマネ事業所をみの独立型「一人ケアマネ」です。学生時代、母親の介護を経験したことがケアマネを目指した背景にあります。カバーエリアは広く、北は下井草から南は永福まで自転車で走り回っています。利用者の平均要介護度は「3」ぐらい。社会福祉士でもある江前さんは現状に満足していません。「ケースワーク的な相談援助専門職として自分のスキルをもっと高めていきたい」と前向きです。土日には医療・介護関係の研修講座に参加しているとか。「在宅で生活をしている利用者を支えていく気持ちには、医療側と介護側に隔たりはないはずです。だからこそ連携が必要なのだと思います」と語ります。



★次号は平成27年11月に発行予定です。

杉並区地域包括支援センター（ケア24）

地域包括支援センター（ケア24）は、高齢者の方が身の回りのことで不自由を感じた時や、家族の介護のことで困った時に相談できる身近な窓口です。

●窓口受付時間：月～金曜日 / 午前9時～午後7時 土曜日 / 午前9時～午後1時
(夜間・日曜日および年末年始も、電話での相談は24時間受け付けています。)

No.	ケア24名	所在地	電話番号
1	ケア24上井草	上井草3-33-10	3396-0024
2	ケア24下井草	下井草2-44-4	5303-5341
3	ケア24善福寺	西荻北4-31-11	5311-1024
4	ケア24上荻	上荻3-16-6	5303-6851
5	ケア24西荻	西荻南4-2-7	3333-4668
6	ケア24清水	清水2-15-24	5303-5823
7	ケア24荻窪	荻窪5-20-1	3391-0888
8	ケア24南荻窪	南荻窪2-28-13	5336-3724
9	ケア24阿佐谷	阿佐谷北1-3-10	3339-1588
10	ケア24成田	成田西3-7-4	5307-3822

No.	ケア24名	所在地	電話番号
11	ケア24松ノ木	松ノ木3-3-4	3318-8530
12	ケア24高円寺	高円寺南4-26-16	5305-6151
13	ケア24梅里	梅里1-7-17	5929-1924
14	ケア24和田	和田1-40-15	3380-0024
15	ケア24久我山	久我山3-47-16	5346-3348
16	ケア24高井戸	高井戸西1-12-1	3334-2495
17	ケア24浜田山	浜田山1-36-3	5357-4944
18	ケア24堀ノ内	堀ノ内1-6-6	5305-7328
19	ケア24永福	永福3-35-11	5355-5124
20	ケア24方南	方南2-6-28	5929-2751

◎地域包括支援センター（ケア24）は、杉並区が運営を委託している高齢者の相談窓口です。